

ワールドハンディキャップシステム – 世界共同プロセスについて

全世界で使用されている 6 つの異なるハンディキャップシステムを、単一のワールドハンディキャップシステムに統一する構想は、多くの団体の結束と協力が必要でした。下記の団体すべてがこの重要な取り組みに賛同し、基本理念の構築に参加したことにより、構想が具現化され、ワールドハンディキャップシステムを 2020 年にゴルフ界に導入できるまでに至りました：

- アルゼンチンゴルフ協会 (AAG)
- ナショナルゴルフ連盟協議会 (CONGU)
- ヨーロッパゴルフ協会 (EGA)
- ゴルフ・オーストラリア (GA)
- 南アフリカゴルフ協会 (SAGA)
- 全米ゴルフ協会 (USGA)
- R&A

これらの団体は一致団結し、ゴルファーの技量と上達を測る均一な尺度の開発に取り組みました。新システム案は、世界中のゴルファーすべてが、国籍を問わず、誰とでも公平にプレーできるようにするものであり、このことによってゴルフの楽しみを更に増大します。

この取り組みは、R&A、USGA、その他のハンディキャップ運営団体が集まった会議から始まりました。そこでは、世界共通のハンディキャップ規則とコースレーティングシステムを組み込んだワールドハンディキャップシステムを追求することのメリットが討議され、まもなく分かったことは、各既存システムの基本理念は非常に類似しており、いずれもゴルファーの潜在技量を判定することによって、技量の異なるプレーヤー同士が合理的に対等に競い合えるようにすることを目的としていることでした。更に、USGA コースレーティングおよびスロープレーティングは、既に世界各地で幅広く採用されており、これを使用することによりワールドハンディキャップシステムにおいて均一なコース難易度を評価することが可能であることも分かりました。これらの事実の後押しされ、その後数回にわたる会議を通して作業は前進し、すべてのゴルフ文化に受け入れられる基本理念が構築されました。

2015 年からは、世界各地で概要説明会を実施し、圧倒的にポジティブで賛同的なフィードバックを得ることができました。

その後、正式な委員会を立ち上げることが決まり、既存のハンディキャップ運営 6 団体、日本ゴルフ協会、ゴルフ・カナダを含む、世界 15 ヶ国のナショナル協会の代表者が参加。また、その他のナショナル協会や団体も、様々な専門部会（タスクフォース）を通して本委員会に貢献するなど、世界各地の代表者が関与し、すべてのゴルフ文化を考慮する体制をつくりました。

過去 2 年間は、委員会と専門部会は多忙な日々を過ごしてきました。より多くのゴルファーを受け入れる近代的で適応性のあるシステム構築、様々な競技方法に応じた公平性の定義、既存のインフラに容易に組み込める IT テクノロジーソリューション開発、および 2020 年初頭の WHS 導入に向けた 2 年間の移行計画作成に取り組んできました。

2017 年夏には、WHS 案に対するゴルファーやゴルフ関係者の意見を収集するために市場調査を実施。専門業者 2 社とナショナル協会の協力のもと、世界 15 ヶ国でインターネットのオンライン調査を実施し、2 ヶ月間で 52,000 件の回答を得ました。

調査の結果、ワールドハンディキャップシステムの理念に賛同する意見が 76%、反対意見はわずか 2% でした。ゴルフでは既にプレー方法、用具、アマチュア資格に関する世界共通ルールが存在しているという事実に共感し、大多数の人々が、ハンディキャップの規則を統一することは理にかなっていると考えていることが分かりました。

その後、ヨーロッパ、アメリカ、および南アフリカの計 5 ヶ所で、より詳細な対面調査を合計 15 回実施。330 名を超える非常に熱心なゴルファーおよびゴルフ関係者が参加し、WHS の主な内容に関

する詳細について、貴重なフィードバックを得ることができました。これらの対面調査で得られた意見や反応は、システム案の更なる改善に役立っています。

必要に応じた地域文化への適応性を兼ね備え、均一で持ち運び可能なハンディキャップを実現し、近代的且つより多くのゴルファーを受け入れる世界統一システムが、ゴルファーとゴルフ関係者から歓迎されることは、これらの調査結果からも明らかです。